



フォーラム PT チーム参加による東京港野鳥公園 新しい干潟の見学会の実施

東京湾再生官民連携フォーラムは、干潟に関心の高い PT チームに呼びかけ、東京都港湾局のご協力のもとに、東京港野鳥公園の「拡張整備が完了した前浜干潟（右写真参照）」の見学会を実施しました。

東京都では、喪失した干潟を少しでも再生するための取組を進めており、中でも、この野鳥公園は、市民活動を契機として埋立地を再生したユニークな事例となっています。

今回拡張した干潟は、現在の干潟に隣接する約 11 ヘクタールの海面に造成し、干潟の面積はこれまでの約 3 倍に広がっています（前浜干潟）。

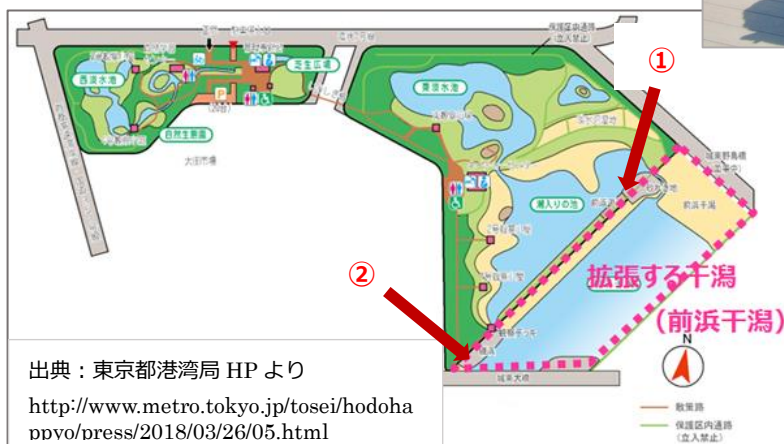
今後は、干潟に生息する貝・カニなど海辺の生きものや、飛来する水鳥が、さらに増えていくことが期待できます。

整備は、現状の埋立部分を削り干潟を作り、この削った土を利用して、さらに干潟に続く浅場を構成していく方法が取られています。また整備には、チドリ類やコアジサシの営巣を目的として、砂礫地を 0.6ha ま



↑観察デッキ

で拡大①、前浜干潟を観察できるデッキの新設や干潟の手前にある磯浜の地形②を改良して、潮だまりの整備を進めています。





チドリ類やコアジサシの営巣用砂礫地①

東京港野鳥公園は、東京湾の埋立地によみがえった自然を活かしてつくられ、大田市場（東京都中央卸売市場）に



「潮入りの池」につながる水路

隣接した 24.9 ヘクタールの広さをもちます。ここでは、かつては遠浅の海でしたが、1960 年代後半から埋め立てが始まり、埋め立て後、地面に雨水がたまって池や原っぱができ、いつしか野鳥が集まる環境になりました。



↑東淡水池

東京港に面した公園内には、干潟の横には、海とつながった「潮入りの池」や、さらに、ヨシ原、「淡水池」、小川、森林などがあり、その環境ならではの生き物たちの利用の場であり棲家となっています。この多様な環境は、自然を上手に生かしてきた、環境デザインの成果と感じられます。

水辺の生物、カニをはじめとする干潟の生物、などの観察でき、見学当日もカニなどを見ることができました。野鳥は、端境期か集団・群れを見ることはできませんでした。





野鳥公園の名称の通り、毎年、シギ・チドリ類、カモ類といった水鳥や小鳥類、オオタカなどが公園を訪れ、年間 120 種類前後、開園以来 227 種類の野鳥が観察されているそうです。

公園施設には、芝生広場やネイチャーセンター、観察デッキ、ベンチとテーブルがあり、自然観察を楽しみながら、ゆっくり休憩ができるようになっています。また、土曜・日曜を中心に、さまざまなイベントが実施されています。

今年も 5 月 20 日開催！ 第 6 回 東京港野鳥公園フェスティバルがあります。

http://www.wildbirdpark.jp/event_fes.html 参照

◆東京港野鳥公園「干潟拡張」見学会◆

- ・開催日時：平成 30 年 5 月 14 日（月）
- ・開催場所：東京港野鳥公園前浜干潟
（大田区東海三丁目地先水域）
- ・主催：東京湾再生官民連携フォーラム
- ・協力：東京都港湾局
- ・参加者：25 名



↑磯浜の地形②を改良して、潮だまりをつくる



↑管理事務所前での参加集合写真